

1. ドイツの幼稚園と〈砂場〉

(1) フレーベルの幼稚園と〈砂場〉

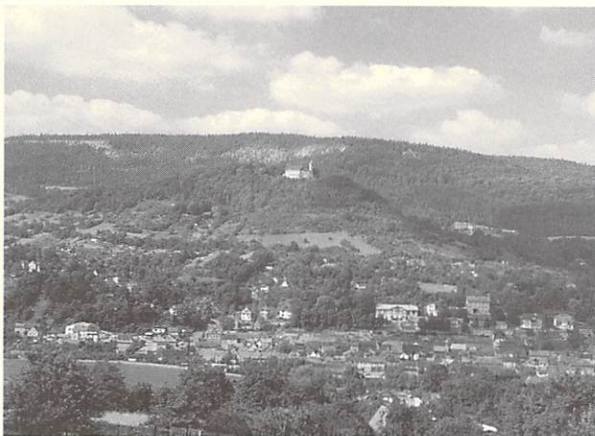
M・E・ザクルシエフスカが、久しぶりに故郷ベルリンを訪れて〈砂場〉で遊ぶ子どもたちの姿を見たのは、一八八五年のことでした。そしてこれが、後のアメリカにおけるブレイグラウンド運動のきっかけとなった決定的な瞬間です。

その四十五年前の一八四〇年、フレーベルはブランケンブルクに世界で最初の幼稚園をつくっています。はたしてそこに〈砂場〉は存在していたのでしょうか。

たしかにフレーベルは、「砂」のもつ教育的な価値について触れていました。たとえば彼の代表作ともいえる『人間の教育』では次のように述べています。

……同様に少年は、可塑性をもってしているもの、たとえば砂とか粘土などでいたずらするのを非常に喜ぶ。それらは子供の生命発達上の要素であるというるだろう。^(注)

世界で最初の幼稚園がつけられたブランケンブルクの今日の街並み



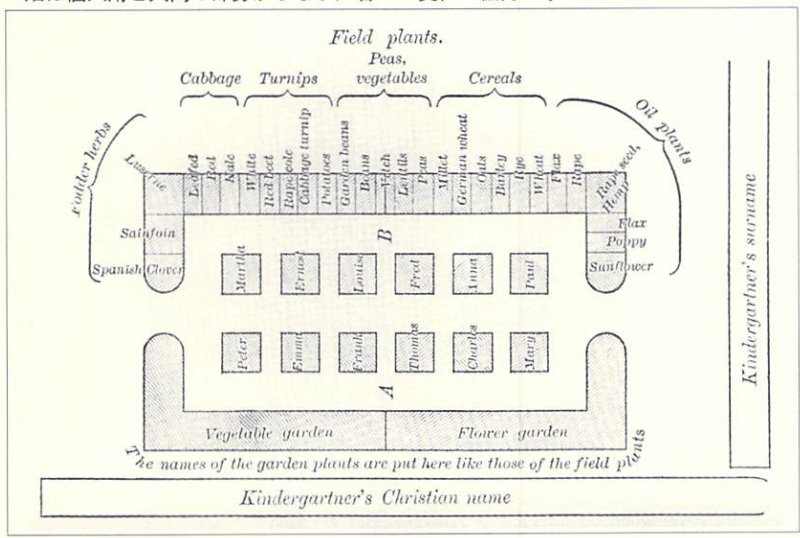
フリーベルは子どもの遊びにおける大切な自然素材として、「砂」を評価していました。当然、〈砂場〉についても何らかの言及がありそうです。

ところが、わたしが見た限り彼の主な著作には〈砂場〉を思わせるような遊び場の記述を見つけることはできませんでした。「砂」の利用ということに関しては、せいぜい室内での机における砂いじりの様子が記されているだけで、あとは、それこそ子どもは自然の中で砂を使った遊びを好むといった一般的な記述だけです。

もっとも、この『人間の教育』はフリーベルの幼稚園がつくられる十四年も前に書かれたものでしたから、屋外遊具についての記述がないというのは仕方ないかも知れません。そこで、彼の『幼稚園教育学』という著作も見ておきましょう。

この中には、「幼稚園における子どものための庭」と題される部分もあり注目すべきところですよ。しかし、ここにも〈砂場〉に関する記述はなく、さらにそこに掲載されている「庭」の平面図にも〈砂場〉は描かれていないので

フリーベル幼稚園の庭。フリーベル自身によって、子どもの畑がデザインされた。畑は個人用と共同の部分からなり、各々の責任と協力が求められた



す。ここでの「庭」はまさに花壇や菜園のことであって、〈砂場〉という遊具を見つけることはついにできませんでした。

実はわたしは、東京女子師範学校附属幼稚園に〈砂場〉がなかったことを知ったときから、フレーベルの幼稚園にも〈砂場〉はなかったのではないかとひそかに思い続けてきました。つまり、フレーベル幼稚園の忠実な模倣である日本の幼稚園に、フレーベルの幼稚園に存在していたものがないはずはなく、結局それは最初から存在しなかったのではないかと考えたからです。

しかし、何といっても幼児教育の歴史において、金字塔ともいえるべきフレーベルの存在です。そんな彼の幼稚園に、今日では当たり前前の遊具である〈砂場〉がなかったということは、にわかには信じがたいことです。

フレーベルの幼稚園に〈砂場〉はあったのか、なかったのか。また、いずれにしても、ドイツにおける〈砂場〉はどのような歴史をもっていたのか。

日本の〈砂場〉のルーツとしてのアメリカ、さらにアメリカのルーツとしてのドイツ。いよいよその本家本元の〈砂場〉に迫ってみたいと思います。

(2) シュラーダー・ブライマンの民衆幼稚園

一八八五年、M・E・ザクルシェフスカがベルリンの公園に〈砂場〉を見たという事実から、わたしはあることを思い起こしました。それは、当時、ベルリンには貧しい子どもたちを対象とした民衆幼稚園 (Volkskindergarten) というものが存在していたということです。

アメリカにおいて〈砂場〉が貧しい子どもたちのための遊び場として始まったことを思えば、この民衆幼稚園との

■著者紹介

笠間 浩幸 (かさま ひろゆき)

1958年生まれ。

北海道教育大学釧路分校卒業。大阪教育大学大学院教育学研究科修了。
現在、北海道教育大学釧路校助教授。

主な著書と活動／

『創る 発達と教育』(共著、川島書店、1993)、『子どもと環境』(共著、
東京書籍、1994)、『教師の〈体験〉活動』(共著、東洋館出版社、1998)、
『Education, Social Justice and Inter-agency Working』(共著、Rout-
ledge, 2001)

日本保育学会、北海道子ども学会、IPA (子どもの遊ぶ権利のための国際
協会)、子ども文化研究所所員、他

〈砂場〉と子ども

2001年10月25日 初版第1刷発行

2002年12月25日 初版第3刷発行

著者 — 笠間 浩幸

発行者 — 錦 織 与 志 二

発行所 — 髙東洋館出版社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-13

Tel/03-3253-8821 Fax/03-3253-6298

URL : <http://www.toyokan.co.jp>

振替 00180-7-96823

印刷所 — 奥村印刷株式会社

ISBN4-491-01746-8

©Hiroyuki Kasama 2001, Printed in Japan